



## 「イエス・キリストの福音の力」

～イエス様は今も生きておられる～

絶好の機会です。ペテロはすかさず話し始めました。「皆さん。どうして、そんなに驚くのですか？なぜ、私たちが自分の力や信仰深さによって、この人を歩かせたかのよう  
に、私たちを見つめるのですか。…この方、すなわちイエスのお名前の力で、この人は  
治ったのです。彼の足が以前どんな状態だったかは、ご存じのとおりです。神から与え  
られた、イエスの名を信じる信仰によって、彼は完全に治ったのです。」

使徒行伝3章12・16節[リビングバイブル]

今朝の大和の週報の文章の中に興味深い内容が書かれていました。

「ある年ソウルのとある教会で礼拝に出席した時、気付いたことがあった。それは賛美歌  
の音の高さだった。日本で見慣れた楽譜より、1音高くなっていた。日本では『音が高い』と  
言われるであろうその楽譜を、集った会衆は難なく歌い上げていたのだ。国によって歌い  
やすい音の高さは違うのかもしれない。その疑問を、私はある講習会で専門家に尋ねてみ  
た。すると話は意外な展開を見せた。答えてくださったのは、プロの作曲家として多くの歌をつ  
くってきたS氏である。S氏によれば、残念なことに日本人の音域は年々狭くなっているのだ  
そうだ。それはここ30年ほど前から現れ始めた現象だという。S氏は特に子ども番組の歌を  
つくる中で、『年々狭くなる日本人の音域』を実感してきたというのだ。なぜだかわかりますか、  
とS氏は私の答えを待たずに教えてくれた。それは 赤ちゃんが泣かなくなったからですよ、と。  
ご存知の通り、赤ちゃんは盛大に泣きわめく。赤ちゃんより少し大きくなった幼子も金切り声  
を出したり叫んだりする。実はそれが声の幅を広げるのだ。子どもの時に大きい声や高い声  
を出すのは音域を広げる練習でもあるという。けれども今は、子どもの声は「うるさいもの」と  
据えられがちだ。だから、大きな声を出す機会が少なくなって、大人になった時の音域も狭く  
なるのだという。正確に言えば、『赤ちゃんが泣かなくなった』のではない。泣く環境をせばめら  
れていったのだ。」

これは日本の福音宣教の難しさとも関連しているように思う。何でも満たされてしまってい  
る日本人。その豊かさゆえに、神を求める心がほとんどなくなっていると感じる。アフリカでは、  
日常的にクリスチャンたちを通して、今も生きて働くイエス様の力が現されている。大きな伝  
道集会であるクルセードには2日も3日も徒歩で何百万人という群衆たちが集まって来る。  
そして、手を上げて飢え渴いてキリストを救い主として迎える。そして、彼らの人生が変えられ、  
病も癒され、神の国の偉大な力が解き放たれる。それに対して、今の日本人は、人間とし  
て真に生きていないように感じてしまう。その人間としての心を失っているように感じてしまう。